

働く男のライフスタイル情報紙

Biz Life Style [ビズスタ]

2018 08

特別版

『BizLifeStyle』は東京、神奈川、名古屋、関西、京都、仙台、福岡、広島、岡山にて68万部発行
下記URLまでアクセスを。

www.biz-s.jp

広告掲載に関するお問い合わせ・申し込みは
TEL.03-6854-7001 FAX.03-6854-7005

企画・制作 / 株式会社デイリースポーツ案内広告社
〒110-0015 東京都台東区東上野4-8-1 TIXTOWER UENO 14F
© 2018 DAILY ADVERTISING AGENCY CO.,LTD

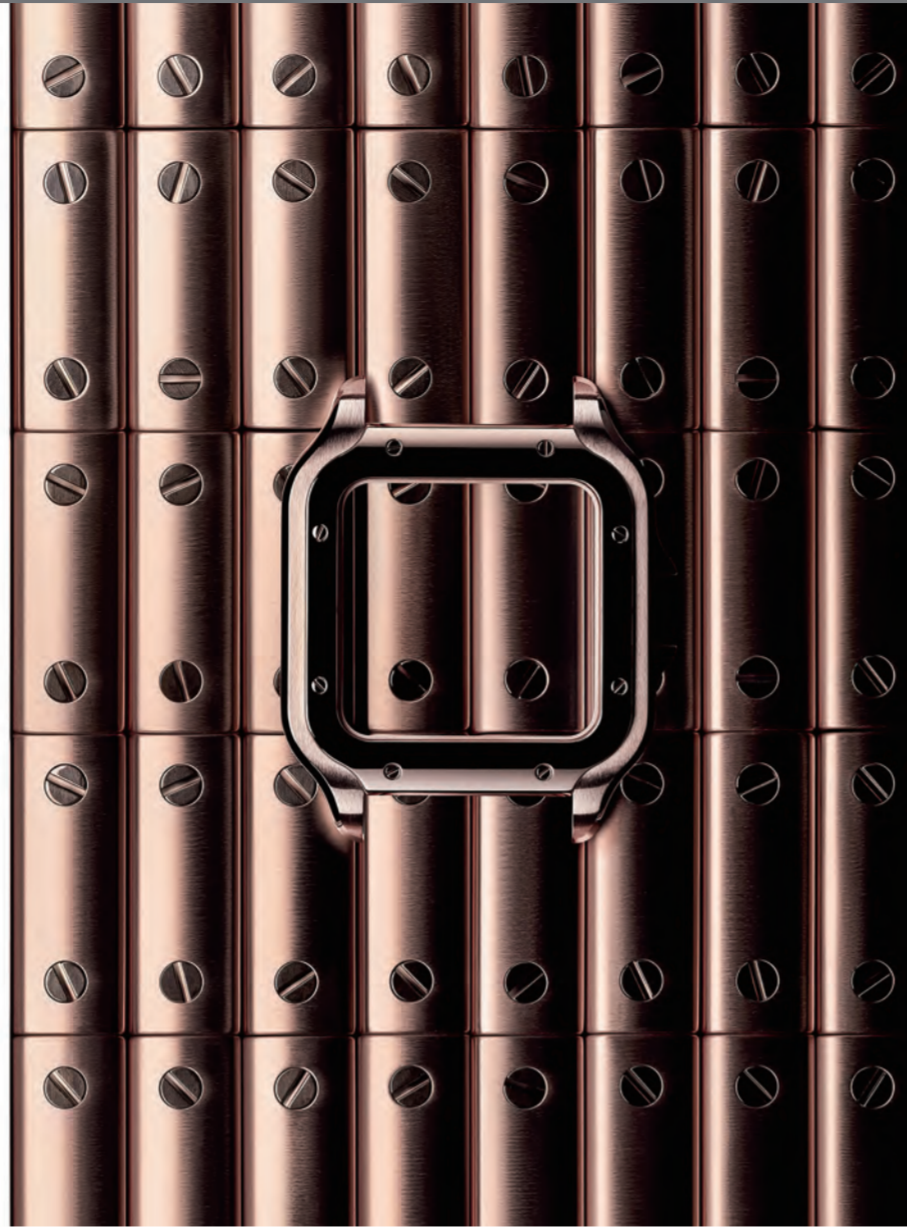


それは、革新的な発想。カルティエ。

My Favorite Life Style



Eric Sauvage © Cartier



Eric Sauvage © Cartier



腕時計の歴史はこのコレクションから始まった。

手元で現在時刻を確認するだけであれば、それこそスマートフォンで代用できる時代。だが本物を見分けるだけの知性を持つ大人たちは、時を知る方法にも「美」を求める。その昔、外出先を時を知らせるのは、懐中時計の役割だった。それを手首に巻きつけ、知性と感性、美への意識を雄弁に表現できるアイテムへと昇華させたのは、このコレクションだ。

誕生から100年を越え、コレクションの顔であり続ける名品

カルティエが腕時計というスタイルそのものを開拓した理由については、有名な逸話が残っている。1904年に完成したレザーストラップ付きのウォッチ「サントス」はその名の通り、発明家で著名な飛行家でもあったフランス系ブラジル人、アルベルト・サントス＝デュモンに捧げられたものだ。操縦しながら時刻を確認したいという素朴な要望を受けたルイ・カルティエ本人が、腕に着けることを前提とした時計を着想し、デザインしたのだ。特別に製作された「腕時計」は、後に「サントス・ドゥ・カル

ティエ」として製品化され、懐中時計を取り出す面倒から人々を解放することに。まさに社会のあり方を変えたエポックメイキングな時計となったわけだが、それだけでは終わらなかった。サントス・ドゥ・カルティエは、今も同社を代表するコレクションのひとつであり続けている。何と、オリジナルの誕生から100年以上が経つ現在も新作が発表されている。

タイムレスな腕時計の最新コレクションが到着

人々に「美しい」と言わせるデザインは至るの道であるが、年表に名を刻むレールの歴史が課せられる、それは、いわゆる「時の試練」を乗り越える普遍性を備えていることだ。1904年から今日まで基本的なフォルムを保つサントスは、その典型と言ってもいいだろう。

数十年の時を経て古びれない名品は「タイムレス」と呼ばれる商品の必須条件。加えて、その時代にしか生まれ得なかつたエッセンスを持ち、なおかつ今日現在も人々に愛される製品だけが得る称号なのだ。カルティエは、そんな「本物の美」をいくつも有しているが、中でもサントス・ドゥ・カルティエは白眉と言え、何しろ、2018年に入ってから発表された新作コレクションが、世界的なニュースになっているのだから。

世界の名門ブランドの新作

発表舞台となっている見本市、S.I.H.H.(通称ジネーブサロン)。カルティエはこの特別な展示会で毎年このように話題を独占している。今年七月の一月に開催されたのだが、初日から会場内の注目を一身に浴びたのが、何を隠そうサントス・ドゥ・カルティエの最新コレクションだった。

より穏やかに、より力強く、相反する要素を両立する力

幾何学的な美を内包した端正なフォルム。ベゼルを飾る8本のヒスが表現する構造的で建築的なイメージ。サントスウォッチには、20世紀初頭の欧州が描いていた美意識が今も継承されているが、今回のコレクションでは装着感とバランス感がさらにブラッシュアップされた形とならしている。サントスとしての不変のコードは保たれているので、見た瞬間に驚かされるあの緩やかなれみを帯びたスクエアなフェイスは健在。新作コレクションではそれに加えてケースからストラップへ流れる独特のラインに手が加えられた。

細やかな、細やかな、細やかな。種やかな気品を増量しながらも、全体的にはサントスらしいタイムレスな美を強調する。一見、相反するベクトルを同時に扱いつつ、矛盾や破綻を来すことなく、この「美」としてまとめる能力。それがカルティエのデザインの真骨頂だ。

そして、今回の新作コレクションでは「腕に着けるモダンウォッチ」として誕生したサントスの象徴たるストラップに、再び新機軸が投入された。

時計ストラップのオリジンに搭載された2つの新機軸

時代に先駆けてレザー製ストラップを持ち込んだサントスは、素材選択の面でもハイオニアの役割を担ってきた。新コレクションでは、加えてアレシンの面でも新たな地平を切り開く。「フックシステム」は、ステンレススティールやゴールド、カーフレザーやアクリルゲーターといったさまざまな素材のストラップを自由に交換できるように開発された独自機構だ。ケース自体の構造に組み込まれており、ストラップ裏をワンタッチで動かすだけで作動する画期的な機構となっている。また、メタル製のプレズレットは、1リンク単位でのサイズ調節を実現する「スマートリンク」も大きなトピックだ。

* * *

いずれの機構も、特殊な道具を使うことなく、ロック&フィールをアレンジできる意欲的な技術だが、これらがストラップのオリジンであるサントスに導入されたことには歴史的な意義を感じる向きが多い。ジャーナリストやコレクターたちが集うS.I.H.H.が沸いたことには理由があったのだ。カルティエは毎年、後に名品と呼ばれるモデルを送り出している。今回のサントスはそんな未来を予感させてくれる。

Santos de Cartier



サントスドゥ カルティエ CRW2SA0007 MMモデル(35.1×41.9mm) イエローゴールド、スチール 1,058,400円(税込)



サントスドゥ カルティエ CRWSSA0009 LMモデル(39.8×47.5mm) スチール 799,200円(税込)



サントスドゥ カルティエ CRWGSA0011 LMモデル(39.8×47.5mm) ピンクゴールド 2,397,600円(税込)



サントスドゥ カルティエ CRWGSA0007 LMモデル(39.8×47.5mm) ピンクゴールド 4,352,400円(税込)

© Cartier



母国・ブラジルではリオデジャネイロの空港の名に、フランスのパリではストリートの名に、そして月ではクレーターの名に、宇宙開発プロジェクトではミッション名に。1897年に気球での飛行に成功し、1907年には飛行機の前身を発明したアルベルト・サントス＝デュモンは、航空界のバイオニアであると同時に自身の研究成果を無償で提供した篤志家でもあった。1904年に友人のルイ・カルティエが生み出した「サントス」は、時計製造業界に革命をもたらした。

My Favorite Life Style



パンテール ドゥ カルティエ
CRWSPN0007
MMモデル(27×37mm)
スチール
510,300円(税込)



パンテール ドゥ カルティエ
CRW2PN0007
MMモデル(27×37mm)
イエローゴールド、スチール
896,400円(税込)



パンテール ドゥ カルティエ
CRWGNP0006
SMモデル(22×30mm)
ピンクゴールド
2,214,000円(税込)



パンテール ドゥ カルティエ
CRWJPN0015
SMモデル(22×30mm)
イエローゴールド、ダイヤモンド
2,624,400円(税込)

ジュエリーのように着こなす時計。パンテール ドゥ カルティエ。

© Cartier

Panthère de Cartier

80年代の名作が突如甦る！
世界が驚いた新作コレクション

「カルティエは毎年のようにS・I・H・Hの耳目をさらしている」という表現は、決して誇張ではない。今年「サントスドゥカルティエ」の話題でもちきりだったS・I・H・Hだが、1年前の同じ会場で賞賛を身に集めたのも、やはりカルティエの名コレクションの新作だったのだ。

昨年のS・I・H・Hのニューラスとなったパンテールドゥカルティエは、ある意味では今年のサントス以上に衝撃的に映ったかもしれない。と言うのも、やはりレディースウォッチの歴史に残る名作でありながら、長らく新作が発表されていなかったのだが、突如としてその沈黙を破ったからだ。

ひとめでその美貌が分かるフェミニンなデザインは、世界的にファッションカルチャーが開いた1980年代の活気を表現したものだ。時代の空気を感に見事に描いたこのコレクションも、ストラップ部分が非常に特徴的だ。もともと時計とジュエリーは近い関係にあるが、宝石やブレスレットと完全に溶け合うような官能的な美にまで引き上げたウォッチデザインは、カルティエの最高峰のひとつと言えるものだ。

セレブリティたちを中心に、世界中の女性たちにとっての自己表現のシンボルとなっ

たパンテールは、その鮮烈な時代性ゆえに流行の最前線で語られ、次の時代へとバトンを継いだ。だが、この新生パンテールドゥカルティエは、サントスをはじめとする同社の各コレクションと同様に「タイムレス」であることを証明した格好となった。

さらに美しく磨き上げられたエッジで現代性を表現しつつ、しなやかなリンクのブレスレットで優美な魅力を振りまきジュエリーとしてのタイムピース。フォーマルにもカジュアルにも対応可能で、美意識と言うよりも一人の女性としての精神性まで描くような複層的な美。その世界観の構築力には「さすがにカルティエ」とため息をつくしかない。

オリジナルモデルが発表された時代から人間社会は大きな変貌を遂げたが、この新たな時代にも、変わらず「女性の美」を贈りたい。そんな同社の想いが明確に表現された注目コレクションと言えるだろう。

* * * * *

駆け足で注目コレクションを紹介してきたが、残念ながらこの誌面だけでは魅力の半分も届かない。なぜなら、手に取り、腕に付けて初めて伝わる感覚こそが、カルティエウォッチの真骨頂だからだ。ひとたび実物の輝きに触れば、きつと美への意識が変わるはずだ。



Biz Life Style Pick up >>>

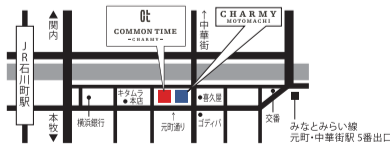
横浜・元町で本物のカルティエ体験を男女ともコレクション充実のハイエンドウォッチ専門店

移転リニューアルから3周年を迎えた、高級機械式時計の専門店。世界最高峰を競うハイエンドブランドを豊富に揃えているが、とりわけカルティエコーナーは男女ともコレクションが充実。上質感が行き届くゆとり空間で本物のカルティエ体験ができる。あつて、夫婦やカップルでの来店客も多いという。販売だけでなく、磁気抜きや各種クリーニング、精度チェックなどのメンテナンスサービスも実施。2階にはバーカウンターも設置しているので、購入時にはグラスを傾けながら到着を待つのも恒例のシーン。スタッフとの時計談義など、専門店の楽しみに満ちた元町の名店だ。

取り扱いブランド

カルティエ、オメガ、タグホイヤー、ブライトリング、IWC、パネライ、ゼニス、ジャガールクルト、ヴァシュロンコンスタンタン、ジラルールベルゴ、シャネル ほか

COMMON TIME -CHARMY-



コモンタイム 横浜元町本店(CHARMY ウォッチ館)
神奈川県横浜市中区元町3-120 TEL.045-662-0041 営業時間/11:00~20:00

www.common-time.jp

カルティエ カスタマー サービスセンター
フリーダイヤル 0120-301-757
受付時間/10:00~20:00 無休(年末年始を除く)

www.cartier.jp